

2022 年度事業報告書

I 施設の設置・運営事業 《公益目的事業》

WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営。

☆ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 (厚生労働省WAC認定事業：1990年10月17日付)

☆ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 (厚生労働省WAC認定事業：1994年12月15日付)

※WAC(ウエルディング)コミュニティ事業:

1989年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

① 疾病予防運動センター

「ニッセイ・アーク西大和」(ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC第1号施設)

- ・スタジオ、プールレッスンは、四半期毎にニーズに合わせたプログラムを展開。好評につき、ショートレッスン(ジムスモ)を増設した。
- ・地域会員数増加を目指したポスティング活動について、上期は通常のオリジナルチラシを商圈3km以内に12,000部、下期はマシン導入のチラシを8,000部実施。専用ブースの設置など既会員からの紹介キャンペーンに注力し、新規入会に波はあったものの0名の月は無く、会員数を維持した。

「ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸」(ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC第1号施設)

- ・「安心・安全」なクラブ運営を目指し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、設備更新や募集・宣伝活動に努めた結果、会員数の回復につながった。松戸市健康増進イベントにも引き続き参画し、ウイズコロナ社会における地域の健康増進拠点として貢献した。
- ・感染対策に配慮しつつ、各種クラブ内イベント、野外でのランニング・ウォーキングイベント、キッズダンスイベントなどを開催して、コロナ禍においてもスポーツを通じた交流の場を提供した。
- ・冷暖房温度、温浴温度や館内照明の調整など、会員の協力も得て省エネルギーに努めた。

② 診療所

「ニッセイ聖隷クリニック」(ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC第1号施設付置診療所)

- ・新型コロナワクチンの追加接種について、入居者、職員、地域患者を受入れ、2,327回接種を実施。その結果、河合町の感染症対策にも寄与しつつ、増収にも繋がった。
- ・発熱外来認定医療機関として積極的に患者を受入れ、PCR検査400件と抗原検査208件を実施した。
- ・4月より新規診療科として皮膚科を開設。入居者をはじめ高齢者の皮膚トラブルの軽減に繋がった。患者数は83人/月平均となり、診療日はほぼ予約枠がいっぱいの状況であった。

「松戸ニッセイ聖隷クリニック」(ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第1号施設付置診療所)

- ・新型コロナウイルスワクチン接種の実施医療機関となり、入居者ならびに職員、協力業者社員へのワクチン接種を実施した。
- ・ご入居者が新型コロナウイルスに感染された際には病棟に隔離ゾーンを設定し、入院を受け入れた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として新規の外部外来患者は制限したものの、再診の外部患者の受け入れは継続した。また、外部病院との速やかな入退院調整により、地域の急性期病床の効率的な利用に貢献した。

③ 高齢者総合福祉センター

「ふれあいプラザ」(ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 第2号施設)

- ・文化教養講座は感染対策として河合町立文化会館まほろばホールを使用し、入居者と一般受講生を別々とする二部構成で実施した。ただし、朗読講座やオペラ講座といった発声や歌唱を伴う講座は引き続き中止とした。
- ・「色鉛筆ぬり絵講座」の再開を望む声が多く、新規講師開拓など準備をすすめた。2023年度より「大人のぬり絵講座」としてリニューアル開講を予定している。
- ・広報紙「ふれあい西大和」は、年4号を各5,000部発行。毎号、入居者募集に関するお知らせ、ベテルホームの利用案内、ニッセイ・アーク西大和の会員募集を掲載した。

「ニッセイ松戸アカデミー」(ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第2号施設)

- ・コンサートなどへの地域の方の参加を緩和し、地域の文化活動拠点として機能を大きく回復した。感染対策として地域の方と入居者を別にして、二部制での開催とし、同時にイベントの動画を入居者には園内ケーブルテレビで配信、地域の方向けにはYouTubeで配信した。
- ・定期教室は12教室中、9教室を継続し、体験教室では入居者19名、地域の方5名に参加頂き、13名の新規入会に繋げることができた。
- ・夏号の「ニッセイエデンだより」から紙面サイズを拡大し、地域に配布した(約48,000部/回)。

④ 在宅介護サービスセンター

「ニッセイいれい在宅介護サービスセンターヘル西大和店」(ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 第3号施設)

- ・新型コロナ感染症の感染不安から、デイサービスやショートステイに行くことができず自宅で過ごす利用者を、地域事業所との連携や訪問内容の工夫により支援することができた。
- ・訪問ヘルパーの採用が難しいこともあり、離職防止の観点から功労品贈呈の取り組みを行い日頃の感謝を伝えることで仕事の意欲に繋げることができた。

「ニッセイエデン ヘルパーステーション」(ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第3号施設)

- ・新築した4号館に事務所を移転した。
- ・感染防止の装備をはじめ、全職員のワクチン接種、頻回なPCR検査、定期的抗原検査など感染対策を講じた。訪問利用者の新型コロナウイルス陽性に伴う職員の感染にも直面したが、対策の効果もあり感染拡大には至らず、利用者数の制限をせざるを得なかったものの、コロナ禍においても地域へのサービス提供を継続する事ができた。
- ・「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」として、職員の専門研修への参加により実際に対応可能な体制を整えた。

⑤ 有料老人ホーム

「奈良ニッセイエデンの園」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 第 4 号施設)

- ・一般居室の新規契約戸数は 18 戸、退去が 21 戸、介護居室への住替えは 8 戸となった。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は 400 戸(総戸数 412 戸に対し入居率 97.1%、入居者数 515 人)となった。
(一般居室 354 戸/362 戸(入居率 97.8%)、介護居室 46 戸/50 戸(入居率 92.0%))
- ・入居者の平均年齢は 82.9 歳(男性 82.0 歳、女性 83.4 歳)となり、対前年横這いであった。
- ・総入居者数 515 人のうち要介護等認定者数(割合)は年度末で 139 人(26.9%)となった。
- ・地域連携について、近隣小学校児童下校時の安全確保のため、入居者と職員(全事業所)で見守り活動を継続した。また、世代間交流として河合町立こども園に 2 回訪問し、園内ボランティア「虹のわ」の入居者が制作した人形のプレゼント企画を継続した。一方、3 年ぶりに再開される自治会の防災訓練への参加を予定していたが、雨天により中止となった。
- ・終末期まで自分らしく生きる支援が行えるように、入居者本人の思いを身元引受人も交え、多職種とともに話し合う場「人生会議」を推進し、看取り期を中心とした自立の入居者まで対象者を拡大し 8 件実施することができた。
- ・採用困難課題の解決に努め、外国人留学生の採用ルートを開拓し、新卒正職員 2 名、パート 9 名の採用につながり、組織の多様性への対応力向上にも寄与することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策では、感染力の強いオミクロン株の流行にともない、園内の感染拡大も想定した重症化予防策へ転換し、クリニックでの抗ウイルス薬の処方運用を構築し、園内療養環境を整備した結果、重症者の発生を防ぐことができた。
- ・開園 30 周年記念行事をプロジェクトメンバー中心に企画し、記念式典・記念品の配布(入居者・職員)記念御膳の提供を行った。

「松戸ニッセイエデンの園」(ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 W A C 第 4 号施設)

- ・一般居室の新規契約戸数は鍵渡しベースで 22 戸、退去が 23 戸、介護居室への住替えは 4 号館の完成により促進され 14 戸となった。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は 332 戸(総戸数 352 戸に対し入居率 92.7%、入居者数 413 人)となった。
(一般居室 297 戸/315 戸(入居率 94.2%)、介護居室 35 戸/43 戸(入居率 81.3%))
- ・総入居者数 413 人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で 128 人(30.9%)となった。
- ・建築を進めていた 4 号館の運用を 8 月より開始し、これにより介護居室が 6 戸増室となり、介護居室不足への懸念に対応することができた。また、介護現場への ICT の導入として見守りシステム(ライフリズムナビ)の本格稼働を開始。ご入居者の睡眠の質向上と、職員の業務効率化を図ることができた。加えて、最新のチェアインバスやミスト浴槽などを導入し、ご入居者に快適で安全な入浴を提供できるようになった。さらには、天井走行型リフトや可動式リフト等を導入し、腰痛予防など介護職員の負担軽減に資する整備を進めることができた。その他、入居者用メールボックスやコーゼネレーションシステムの更新工事など、施設の永続性を保つための施設設備の整備を進めた。
- ・新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた「感染症 BCP」と大規模災害に備えた「災害 BCP」を策定。また、感染対策シミュレーションや行方不明者捜索訓練を実施し、有事への対応能力向上に努めた。

II 調査研究事業 《 公益目的事業 》

① WAC事業の展開の中で、高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野(以下「4分野」という)に関するノウハウ・スキルの研究と成果の情報提供

- ・長引くコロナ禍の影響で、高齢者の交流も減少傾向にあることを踏まえ、京都大学の協力を得て、「高齢期におけるスマートフォン活用の効果に関する実証研究」を奈良ニッセイエデンの園で実施。高齢者 20 名を対象にスマートフォンを貸与し、年間通じて2週間に1回のペースで講座を開催し、スマートフォンの活用方法等を共有し、「ICT機器活用促進」や「QOL 向上」の効果検証を行った。
- ・聖隷福祉事業団・日本老人福祉財団と共催する「有料老人ホーム実践研究発表会」にて、各施設の研究成果を通じて情報共有を行い、より入居者に満足いただける施設運営を模索した。

② 地域住民等への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・コロナ禍が続くなか、感染拡大防止の観点から、認知症や転倒予防等をテーマにした地域住民向けの講演会・教室は開催を見送ったが、入居者向けの転倒予防の講習会等を実施するなど、介護予防に関する情報提供に努めた。

III 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》

介護事業を担う人材の育成を支援する観点から、介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を目指す学生に奨学金を支給した。

2020 年度より、日本語学校に通う外国人留学生で介護福祉士等を目指す学生に対して、助成対象を拡大。コロナ禍による応募減少等を踏まえ、2022 年度は休止。

IV 施設の設置・運営事業 《収益事業等 その他事業 1》

個々人の健康状態及び体力に合わせた適切な指導のもとで、運動、機能訓練を行うための施設を設置、運営し、健康維持、疾病予防に資するための事業のうち、60歳未満の利用者を対象とするもの。

① 疾病予防運動センター

「ニッセイ・アーク西大和」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 1号施設)

- ・スタジオ、プールレッスンは、四半期毎にニーズに合わせたプログラムを展開。好評につき、ショートレッスン(ジムスモ)を増設した。
- ・地域会員数増加を目指したポスティング活動について、上期は通常のオリジナルチラシ12,000部、下期はマシン導入のチラシ8,000部を商圈3km以内に配布。専用ブースの設置など既会員からの紹介キャンペーンに注力し、新規入会に波はあったものの、会員数を維持することができた。

「ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸」(ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 1号施設)

- ・「安心・安全」なクラブ運営を目指し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、設備更新や募集・宣伝活動に努めた結果、会員数の回復につながった。松戸市健康増進イベントにも引き続き参画し、ウィズコロナ社会における地域の健康増進拠点として貢献した。
- ・感染対策に配慮しつつ、各種クラブ内イベント、野外でのランニング・ウォーキングイベント、キッズダンスイベントなどを開催して、コロナ禍においてもスポーツを通じた交流の場を提供した。
- ・冷暖房温度、温浴温度や館内照明の調整など会員の協力も得て、省エネルギーに努めた。

V 施設の設置・運営事業 《収益事業等 その他事業2》

公益目的事業における介護を必要とする高齢者の家庭生活支援を目的とした施設（在宅介護サービスセンター）のサテライト拠点、また当該施設と関連・連携する医療、介護等各種施設の設置及びこれらの事業。

① 介護老人保健施設

「奈良ベテルホーム」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 併設施設)

- ・面会に関して、新型コロナウイルス感染症蔓延時は中止していたが、減少時はタブレットによるオンライン面会を実施し、2023年3月からはベテルホーム事務所前で15分間対面面会を再開した。
- ・通所リハビリテーションでは、個別リハビリ、レクリエーションを感染に注意しながら行うことができた。利用者が希望する趣味活動も行き、感染拡大時でも安心して利用してもらうことができた。
- ・入所利用者に自立支援として、紙パンツを使用している方に布パンツに戻す取り組みを10名行った。家事活動（机を拭く、食器を片付ける等）を可能な方は行ってもらい、利用者同士の繋がりも考え、一人ではなく複数で話をしてもらいながら活動（オセロや将棋など）を行うことができた。
- ・科学的介護推進体制加算、口腔衛生管理体制加算を新規加算算定することができた。
- ・SDGsの取り組みとして、利用者家族、職員から古着200着（ポリオワクチン10名分）、食品25kg、使用済みカイロ600個、使用済み切手1,700枚を回収し、各機関に送り役立てもらった。

② 訪問看護ステーション

- ・自宅での看取り件数は増加しており年間15件のエンゼルケアを実施。また、グリーンケアを再開し、今後も看取り前後の家族支援を強化した。
- ・感染、災害の事業継続計画（BCP）を策定し、現在は、スタッフに説明を行い、西和地区の各病院、地域の訪問看護ステーションと連携し足並みを揃えて運用する取り組みを実施した。

③ ケアプランセンター

「ニッセイせいのけあプランセンター西大和」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 併設施設)

- ・毎月の件数と特定事業所への集中度を可視化、職場会で毎月共有し、利用者増と特定事業所集中度が80%以下になるよう意識的に取り組むことができた。
- ・入院時連携や退院前カンファレンス、各種研修会、地域ケア会議・河合町ケアマネネットワーク会議等に参加し、地域包括支援センターや他事業者と協働することができた。